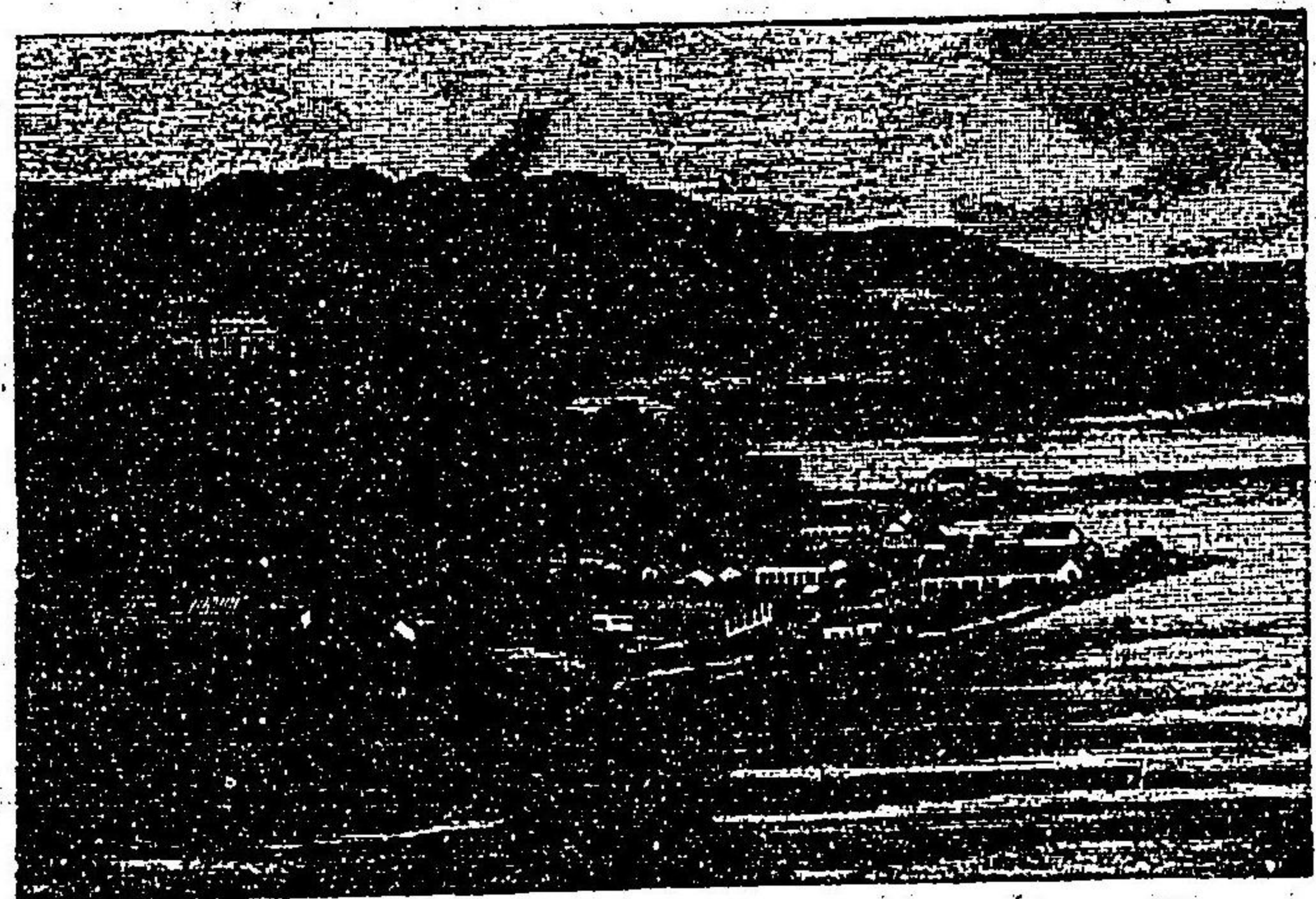


●臺中府は、臺中縣廳の所在地にして、苗栗の南に位し、街は規模の廣大なるに拘はらず、住民未だ多からず、府の東南山中の溪間の埔里社には、支那人及び熟蕃の村落あり。彰化は臺中の西にあり。その西の海岸にある鹿港は北の梧棲と共に、開港場なり。中につきて、鹿港は支那に渡る最近の要津なるを以て、西部商業の中心に當り、貨物の集散盛んに、支那船常に入出す。臺中より南に、北斗を過ぐれば、嘉義あり。その西北數里に北港あり。これより北港溪を下れば、溪口一帯の地方を下湖口と稱し、開港場の一たり。嘉義の東北の雲林は樟腦の集散地を以て名高し。嘉義の西海岸にある東石港も、また開港場たり。嘉義の南にあたる臺南府はもと、臺灣府と稱し、鄭氏の都を定めし以來、久しく本島の首府たりし處と

て、今も猶、臺南縣廳を置き、南部商業の中心に當れり。安平港は府の西北にある開港場にして、砂糖樟腦の輸出夥し。されど、船舶の碇泊は、海岸を去ること一里許の外にありて、貨物の揚げ卸しには、カマランと稱する竹筏を用ふる不便あり。臺南の南の鳳山は蕃地に入るの街道筋に當る。鳳山の西の打狗港は、又旗後と云ひ、開港場にして、砂糖の輸出盛んに、安平と共に、南部の良泊たりしが、港底次第に淺くなるがために、商況日



○港 一狗 打 安平港

(一) 宮古島の人民が深
く殺せしむるに
よる

に衰ふるが如し、されど、下淡水溪口の東港は、水利に宜しきにより、米穀砂糖等の輸出甚だ盛んに、今は、開港場の一たり。東港の東南に恒春あり、本島極南の都邑にして、人文未だ開けず、恒春の東北は、所謂、牡丹蕃社にして、明治七年に、征臺の事ありしを以て、我が國人に知られ、蕃社の酋長は、今に首棚を設けて人首を所持するものあり、また蕃人の帶ぶる刀には、鞘室に人頭を彫刻し、首級を獲れば、獲るだけその數を加へ、數の夥しきを以て名譽とす。●恒春の東南端の南岬は、實に帝國の最南端にして、近海は暗礁多く、海流亦急なるが上に、暴風屢起るを以て、今は岬頭に燈臺の設けあり。是より東の紅頭嶼は、臺灣島を距つること、僅かに四十海里なれども、住民は他種族との交通なきを以て、太平無事に別天地の生

活をなし、千二三百の土人は、皆純然たる馬來種族より成り、八社の蕃社に分かる、概ね裸體を以て常とし、外出の際には、籐製椰子製の帽子を被り、服装は苧麻管にて作りたる胴衣を着け、短刀を右肩より左脇の下に掛け、又儀式の時は、風呂敷様のものを掛くる等、一種の奇風をなせり。臺灣島の東部一帯は、所謂、生蕃地方にして、卑南に臺東廳あり、宜蘭には宜蘭廳あり、宜蘭の南の蘇澳は、東岸唯一の良港なれども、交通不便なるを以て、人口今に稀少なり。●澎湖列島は澎湖島、漁翁島、白砂島及びその附近の諸島より成り、面積壹岐國に等しく、澎湖廳を置きて全島を治む、島内概ね平坦にして、拔海三百尺を出づる處なく、地に喬木なし、されど、三島相抱きて、内海をなし、その南灣の媽宮港は、實に列島中の良港にして、

大船の碇泊甚だ自在なるによりて、今は開港場の一となり、澎湖廳所在の地たり。漁翁島の西南海上にある花嶼は、帝國の西端たり。

臺灣の物産は農産物甚だ夥しく、殊に茶砂糖は本島の一大富源にして、茶は北部地方に産し、糖業は南部の西岸地方に行はる。又樟腦の産額は世界第一に位し、大姑陷地方に巨大の樟樹あり、その他、米、甘蔗は年内二三回の收穫あり、鐵物も石炭、石油、硫黃、砂金等を産し、殊に砂金石炭は採掘最も有望なり。

第三章 政治

政體 帝國の政體は、東洋唯一の立憲君主政體にして、萬世

一系の 天皇は、國の統治權を總攬し給ひ、明治二十二年二月十一日、憲法を發布し給ひしより、國家の機關益完備し、行政の事務は國務大臣輔弼の任に當り、立法は帝國議會の協賛を須ちて成り、司法權は 天皇陛下の名に於て、裁判所これを行ふ。

立法部 立法部は帝國議會と稱し、分ちて貴族院衆議院とす。貴族院は皇族、華族及び國家に功勞あり、又は學識ある勅撰議員、并に多額納稅者が互選したる議員より成り。衆議院は、各府縣に於て、公選せられたる議員より成る。

行政部 行政部は内閣及び内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信の九省より成り、内閣總理大臣を首班に置き、各國務大臣を以て内閣を組織す。その他、帝室の事を承くる

宮内省ありて、その長官に宮内大臣を置き、又元老に國務を諮詢し給ふ所の樞密院、及び會計検査院等あり。

地方の行政は、淳和天皇の御代に、全國を通じて一畿七道六十六國二島となり、爾後、明治維新の際に至るまで、大抵此の區劃に據りて政務を調理せしか、明治元年、奥羽を分かちて七國とし、同じく二年、蝦夷を北海道と改め、今は、全國を一廳三府四十三縣に分かち、道廳には長官、縣には知事を置き、更に道廳府縣を小分して、郡區市町村若しくは島廳として、各その長を置き、島廳には島司を置く、されど、臺灣は我が版圖に歸せしより、日猶淺きを以て、特に總督府を置き、天皇陛下の親、あらせられたる臺灣總督ありて、大權の一部を行ひ、その下に三縣三廳を設け、その長官を知事又は廳長とし、又辨務署、撫墾署等ありて、地方の政務を分かち行ふ。

●●司法部 ●司法部は區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院の四

等より成る。その組織は、區裁判所の判決に對する控訴は、地方裁判所これを審判し、地方裁判所の控訴は、控訴院に於てし、控訴院の判決に對する上告は、大審院これを判定す。その内、大審院は最高の法衙にして、こゝにてなせる判決は終審なるか故に、東京に一ヶ所を限れども、控訴院は全國に七箇所、地方裁判所は各府縣に一ヶ所を置き、區裁判所は最下級なるを以て、その數多く、全國に三百有餘あり。その他、行政裁判所は行政官廳の違法處分に關する訴訟を判決し、臺灣には特別の法院を設く。

●●兵備 ●封建時代の軍備は、武士と稱し、今の所謂、士族の専ら任ずる所なりしが、維新後に至り、全國皆兵の制を定められしより、帝國の軍隊は、大元帥陛下親らこれを統率し給ひ

て、苟も臣民の男子たるものは、満十七歳より四十歳に至るまで、悉く兵役に服する義務を有すること、なれり。兵役を分かちて、常備豫備後備及び國民の各兵役とす。常備兵役は、陸軍にありては、徴兵法に由り、適齡の壯丁を全國より徵集し、海軍にありては、沿岸地方及び島嶼の壯丁よりこれを採用し、七年を経て後備兵役に服し、更に五年を経て國民兵役に入る。又常備後備の兵役に服せざる、十七歳より四十歳までの男子は、總て國民兵役に服す。

常備兵役(現役) 陸軍三年 海軍四年

豫備兵役 陸軍四年四月 海軍三年

後備兵役 陸軍五年 海軍五年

陸軍の兵種は歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵等より成り、その外

に憲兵及び軍樂隊あり、その編制は、全國を三都督司令部とし、之を十二師管に分ち、その下に師團を置き、更に旅團聯隊等に小分す、その他、専ら皇室の警衛に任ずる近衛師團及び邊境の島地を警戒する警備隊あり、臺灣は目下各師團交代を以て駐屯し、別に護郷兵の設けあり。

都督部		東部												中部	
師		都督司令部 (在東京)												師	
號		第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二												號	
司令部所在地		東京 東京 仙臺 仙臺 弘前 弘前 名古屋 名古屋 大阪 大阪												司令部所在地	
旅		第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二												旅	
號		第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二												號	
司令部所在地		東京 東京 仙臺 仙臺 弘前 弘前 名古屋 名古屋 大阪 大阪												司令部所在地	

都督司令部 (在大阪)		西部 都督司令部 (在小倉)	
第 九	第 十	第 五	第 六
金 澤	姫 路	廣 島	熊 本
第 十 六	第 十 八	第 十 一	第 十 三
第 二 十 二	第 二 十 一	第 二 十 二	第 二 十 三
金 澤	姫 路	廣 島	熊 本
第 十 六	第 十 八	第 十 一	第 十 三
第 二 十 二	第 二 十 一	第 二 十 二	第 二 十 三
金 澤	姫 路	廣 島	熊 本
第 十 六	第 十 八	第 十 一	第 十 三
第 二 十 二	第 二 十 一	第 二 十 二	第 二 十 三
金 澤	姫 路	廣 島	熊 本

此の外陸軍には出師國防作戰の計畫を司どる參謀本部及び軍隊の練習を監督する監軍部等の諸官衙ありて、現時陸軍々人は常備兵役に服するもの凡そ十四万人、これに豫備後備のものを合せば、三十三万餘あり。軍人を養成する學校には、陸軍大學校、砲工學校、士官學校、中央及び地方幼年學校、戸山學校、軍醫學校、經理學校等あり。

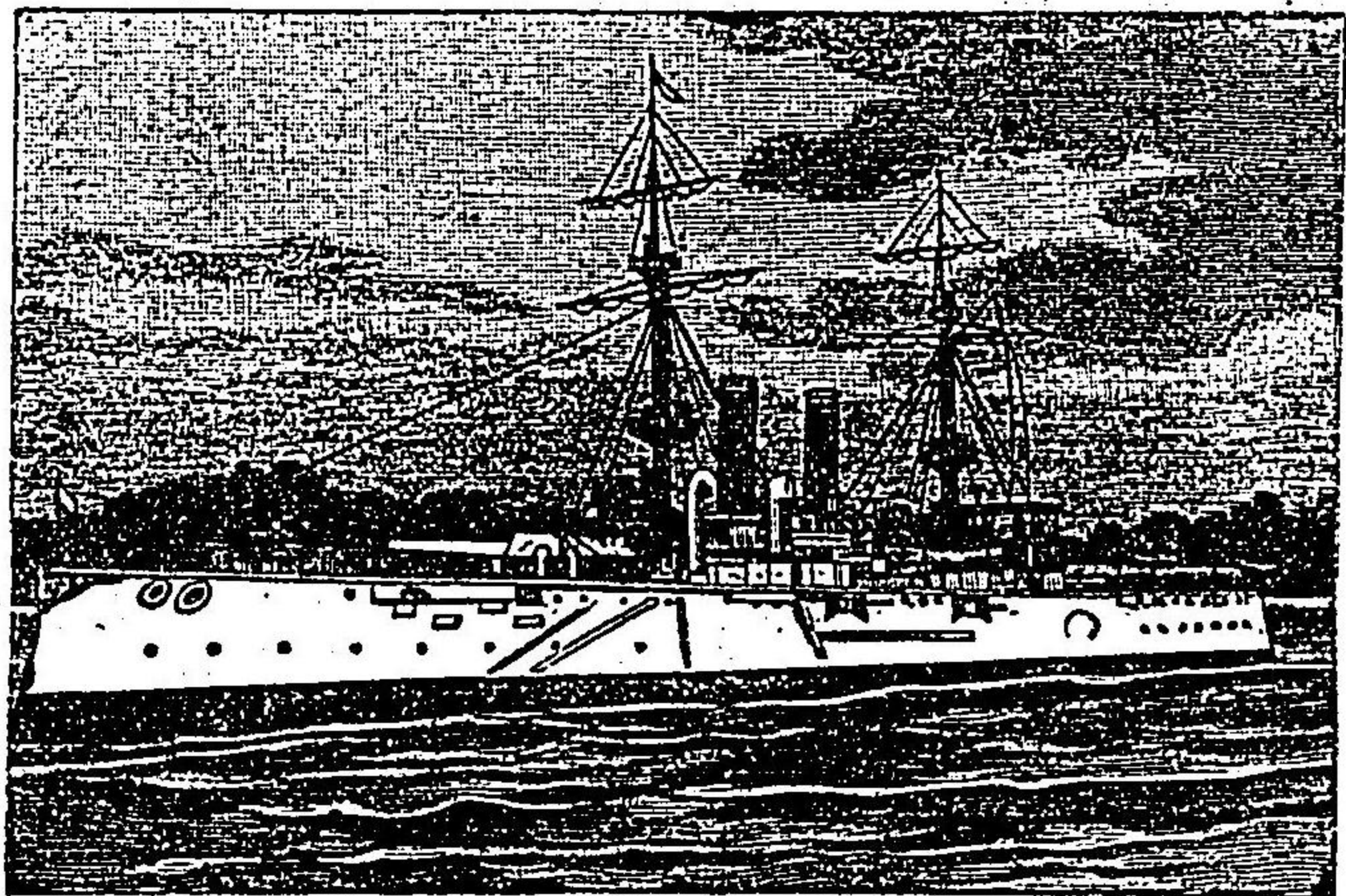
海軍は帝國の海岸及び海面を分かちて五海軍區とし、各海軍區には軍港を置き、鎮守府を設け、軍艦をこれに附屬せし

め、出師の準備軍港及び要港の防禦管轄海の警備并に軍艦の製造修理兵員の徵募訓練を司どらしめ、又別に常備艦隊を組織して、環海を巡衛す、海軍區及び鎮守府の區分は左の如し

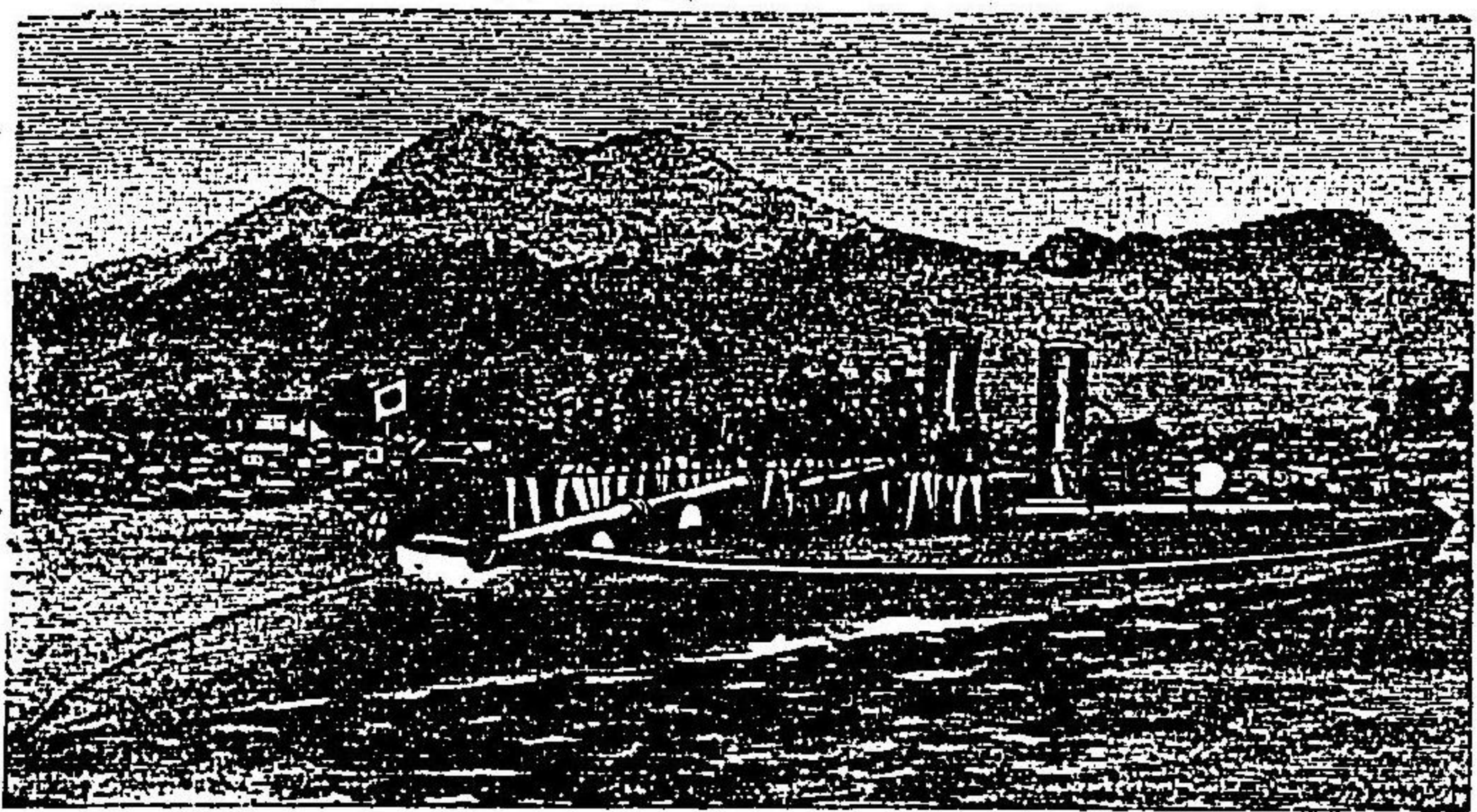
海 軍 區	軍 港	所	管	海 岸 延 長 里 程
第一海軍區	横須賀港	横須賀鎮守府	一〇五七海里	
第二海軍區	吳 港	吳 鎮 守 府	二〇六七海里	
第三海軍區	佐世保港	佐世保鎮守府	一四九七海里	
第四海軍區	舞鶴港	舞鶴鎮守府	一〇五五海里	
第五海軍區	室蘭港	室蘭鎮守府	二二六七海里	

現時、帝國兵艦の軍籍に列するもの、五十餘隻、その排水量凡そ十五萬噸に達す、就中、富士八島の二艦は、各排水量一萬二

千噸以上の大艦にして、淺間常磐の諸艦これに亞ぎ、目下製



號士富艦軍國帝



號鷹小艇雷水

造中又
は回航
中に屬
する一
等戰闘
艦敷島
朝日初
瀬三笠
の四艦
は、共に
一万五千噸以上の大艦にして、八雲吾妻磐手出雲また九千

噸以上なるを以て、これ等にして、悉く竣工するに至らば、その排水量合せて二十六萬噸に達す。水雷船艇は水雷艇驅逐艇水雷艇の種別ありて、これまでは、水雷艇のみにて、凡て二十八艘、その排水量千七百餘噸なりしが、海軍擴張の結果、叢雲東雲雷電夕霧不知火曙漣をはじめ、目下製造中なる陽炎薄雲朧霓の水雷艇驅逐艇より、あらたに製造せる水雷艇を合せば、排水量五千餘噸に達す、水雷艇にては、小鷹號最も宏大なり。
此の他、海軍には出師國防作戰の計畫を司どり、并せて軍隊の教育訓練を監督する海軍々令部、及び兵器を製造する海軍造兵廠等ありて、海軍々人は、現今、三萬千餘あり、海軍々人を養成する學校には、海軍大學校海軍兵學校海軍機關學校

等あり。

第四章 住民

種族及びその特質 帝國々民の最も多數を占むるものを大和種族とす、されど、北海の天地に驅逐せられて、纔かに餘命を保つアイヌ種族琉球諸島に一團をなせる琉球種族及び臺灣の全部に住める臺灣種族も、亦均しく皆我が皇化に霑へるを以て、現今、法律上の所謂、日本臣民は四種族より成れり。

大和種族は歴代皇室の親愛し給ひし、臣民の子孫にして、由來忠勇義烈の精

神に富み、節義を守り、廉耻を重んじ、敢爲にして武を尙ひ、兼ねて優美敦厚の風あり、アイヌ種族は上古は本土に蔓延し、屢大和種族に抵抗を試みたることありしが、今は、北海道の一隅に屏息し、人口僅かに二萬に充たず、此の種族は、性一般に温良篤實なれども、知識の發達甚だ遲鈍なり、琉球種族は大和種族及びアイヌ種族と、全く言語風俗等を異にせることは、人類學上の認むる所なれども、元來、何れより移住せしものなりしやは、未だ詳ならず、臺灣種族は現時、人口凡そ二百七十萬、概ね支那人及び土人の二種族より成る、支那人は支那南部の福建廣東地方より移住せし者にして、福建地方よりの移民は、明朝の遺民に屬し、性温良なれども、廣東地方よりのものは、頑固にして、文化を悟らず、土人は馬來種に屬して、熟蕃生蕃の別あり、熟蕃は大に支那人の感化を受けて、人情風俗言語等は殆ど彼等と大差なきのみならず、學校を建て、一定の業務に従事せる等は、却て下等の支那人に勝れり、生蕃は全く野蠻にして、人を殺し、首級を獲るの多きを名譽とし、とりわけ、いたく支那人を憎み、

常にその首級を獲んことを望めり、我が臣民の彼の地に越ける者の、亦彼等の毒手に仆れしも少なからず、されど彼等は自ら耕し、自ら織り、各その分を守りて自活の道を立て、父子兄弟親戚の關係を重んじ、利の爲めに走らざる等、苟くも人たるの道に於ては、殆ど他の文明人の及ばざる美風あるのみならず、太陽を以て公平の神として、崇拜する等、一種信仰の觀念を有せるを見れば、誠首の嗜好は、彼等が先天の性情に出でし者にあらずして、人種競争の結果、止むを得ず、漸く現時の習慣を養成せしものに外ならず、されば、我が國は同島を占領せしより、懐柔の道、その宜しきに適ひしを以て、彼等は漸次歸服して、誠首の風、亦稍薄らぎ來るに至れり。

●● 人口 帝國々民を分かちて、華族・士族・平民の三階級とし、人口合せて四千五百萬餘あり、その分布は各地に疎密の別ありて、東京府及びその附近、京都・大阪の二府、愛知・香川・熊本等の諸縣には頗る稠密に、千島・北海道・臺灣より、巖手・青森・秋田

宮崎の諸縣には稍稀少なれども、これを全國の面積に配當すれば、粗密の度、一方里の平均人口、凡そ千七百人に當れり。

帝國の人口を以て、我が國人の最も能く知れる、海外諸國の人口に較ぶれば、一方里平均人口粗密の度は、白耳義和蘭、英吉利等を除けば、帝國人口の最も調密なるは實に左に示す所の如し。

近來帝國々民の勞働、留學、又は遊歷のために、海外諸國に渡航するもの、漸くその數を増し、布哇、朝鮮、支那、北米合衆國、西伯利亞、南洋諸島より、英吉利、佛蘭西、獨逸等の諸國に在留せるもの、殆ど六萬に達す。又我が國に在留せる外國人は、支那人、北米合衆國人、英吉利人等最も多く、その數一萬人以上ありて、大抵は神戸、横濱、長崎、東京、大阪等に在留し、支那人は、多くは勞役に服す。

成せんがために、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校等あり、その他、商業學校、農學校、美術學校、工業學校、音樂學校、盲啞學校等各種の實業學校、專門學校等を合すれば、その數凡そ三萬に達す。

●宗教 帝國に流布する宗教を分ちて、神道、佛教、基督教の三とす。神道はその教派を分ちて、大社教、黑住教、御嶽教等の十數派とし、外に、神宮奉齋會あり。伊勢神宮には、宇治の内宮、山田の外宮ありて、ともに國家の宗廟たり。國內の神社はその社格を、官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社等に分ち、尾張の熱田神宮、出雲の出雲大社、常陸の鹿島神宮、下總の香取神宮、奈良の春日神社、山城の賀茂別雷神社、賀茂御祖神社、男山、八幡宮、紀伊の日前神宮、國懸神宮、京都の平安神宮、豊前の

宇佐神宮、筑前の香椎宮、太宰府神社、讃岐の琴平神社、東京の靖國神社、攝津の湊川神社、河内の四條畷神社、大和の談山神社等を始め、その數五萬六千餘あり。佛教は、欽明天皇の御代に、三韓より傳はり、時に一盛一衰ありたれども、國民の歸依最も厚く、その信徒全國に普ねし。宗派を分ちて、法相、華嚴、天台、眞言、臨濟、曹洞、黃蘗、淨土、眞宗、時宗、融通、念佛、法華の十二宗とし、京都の東西本願寺、知恩院、近江の延暦寺、紀伊の金剛峯寺、甲斐の久遠寺、越前の永平寺、能登の總持寺等の本山を初めとし、寺數凡そ七萬二千あり。基督教は、後奈良天皇の御代に初めて我が國に入り、一時多數の信徒を出だし、を徳川氏に至りてこれを嚴禁せしが、維新以後、政府は信教の自由を人民に與へしと共に、歐米の諸國より來りて、盛んに布

教に従事す、されど、その勢力猶微弱にして、信徒は殆ど十萬に過ぎず、東京のニコライ會堂の如きは建築殊に宏壯なり。

第五章 生業

國民の生業は農を主とし、農民の數は實に帝國人口の三分の二以上を占む、これに亞ぐを林業、牧畜業、漁業、鑛業等とし、都邑の民は多く商工業に従事す。

●農業 我が國は、往古より瑞穂國と稱し、歷朝の農業を奨勵し給ひしと、人民の耕作を勉めたるにより、耕地は僅かに、全面積の一割七分なるに拘はらず、米穀は實に重要な産出

物に屬す、中に就きて、米は年額大凡四千萬石を産す、收穫の最も多きを愛知、三重、兵庫、新潟、福岡、熊本の諸縣とし、地の稲作に適せるは、尾張及び大阪附近の地を推し、質の佳良と稱せらるゝは、肥後、米越、中米等とす、臺灣は品質劣れども、年内二回の收穫あり、麥は産額殆ど米の半ばにして、産出の多きは、關東八國を第一とし、尾張、備前、讃岐及び九州の西北部、その次に位すれども、地味の最も麥作に適せるは、武藏、尾張、讃岐とす。茶は氣候の寒きを厭ふか故に、飛騨、信濃以北には栽培甚だ稀にして、九州の西部、山城、近江、伊勢、駿河、遠江の地に最も多し、されど、芳香佳味なるは山城を第一とす、帝國にて茶の産額一年に大抵五千四百万斤にして、過半は海外に輸出し、臺灣も多量の紅茶を産す、蠶業は近來各地に甚だ盛ん

教に従事すされど、その勢力猶微弱にして、信徒は殆ど十萬に過ぎず、東京のニユライ會堂の如きは建築殊に宏壯なり。

第五章 生業

國民の生業は農を主とし、農民の數は實に帝國人口の三分の二以上を占む、これに亞ぐを林業、牧畜業、漁業、鑛業等とし、都邑の民は多く商工業に従事す。
●農業 我が國は、往古より瑞穂國と稱し、歷朝の農業を獎勵し給ひしと、人民の耕作を勉めたるにより、耕地は僅かに、全面積の二割七分なるに拘はらず、米穀は實に重要な産出

物に屬す、中に就きて、米は年額大凡四千萬石を産す、收穫の最も多きを愛知、三重、兵庫、新潟、福岡、熊本の諸縣とし、地の稲作に適せるは、尾張及び大阪附近の地を推し、質の佳良と稱せらるゝは、肥後、米、越中、米等とす、臺灣は品質劣れども、年内二回の收穫あり、麥は産額殆ど米の半ばにして、産出の多きは、關東八國を第一とし、尾張、備前、讃岐及び九州の西北部、その次に位すれども、地味の最も麥作に適せるは、武藏、尾張、讃岐とす。茶は氣候の寒きを厭ふか故に、飛驒、信濃以北には栽培甚だ稀にして、九州の西部、山城、近江、伊勢、駿河、遠江の地に最も多し、されど、芳香佳味なるは山城を第一とす、帝國にて茶の産額一年に大抵五千四百萬斤にして、過半は海外に輸出し、臺灣も多量の紅茶を産す、蠶業は近來各地に甚だ盛ん

にして、本邦輸出品の首位を占む、蠶卵紙産出の多きは、長野・福島群馬滋賀の諸縣を主とし、繭及び蠶絲産出の夥しきも、亦長野群馬福島の諸縣に最も多し。その他、豆類は東京附近に、實綿は瀬戸内海の沿岸地方及び大阪附近に、藍は吉野川の流域尾張遠江筑後肥後に多く、麻は九州の西南部安藝石見越前等の山地に産す。煙草は全國到る處に産すれども、常陸大隅薩摩等より出づるもの最も名高し。砂糖は原料を甘蔗と甘菜とにとり、甘蔗よりするは臺灣に最も多く、一年の産額九千万斤以上に達す。内地にては、香川縣の白下赤砂糖・鹿兒島縣・沖繩縣の黒砂糖共に名高く、近時、北海道も亦甘菜より多少の砂糖を製す。

林業 全土山岳に富み、雨量多きか上に、地味氣候共に植物

の生育に適するを以て、森林到る處に鬱蒼し、その面積原野を合せて、凡そ二千八百万町歩に達す。就中、木曾立山霧島天城の諸山を始め、紀伊大和伊勢日向等の森林には、松杉扁柏樺椴等の良材、廣く幾十里に亘り、深山幽谷の地は、人跡の未だ到らざる處あるのみならず、樟腦木蠟漆椎茸等の山林副産物に富み、殊に樟腦漆は本邦の特産物として、その名外國に高し。

牧畜業 牧畜は風土のこれに適せざるにあらざれども、西洋諸國とは、國民衣食の方法を異にするにより、家畜の飼養は、由來、僅かに牛馬を首め、豚家禽あるのみにして、綿羊山羊等の如きは、敢て記すべきものあらざりき。されど、近年肉食の盛んなるに従ひ、これ等の牧養も亦漸次増殖し、馬は奥羽

地方及び九州に最も盛んに鹿兒島縣薩手縣熊本縣は共に
 十萬頭以上を飼養しその良種なるは殊に南部駒三春駒を
 第一とす其外は廣島縣岡山縣に多けれども兵庫縣鳥取縣よ
 り出物あるものは良種の聞えあり家畜の飼養は上總出雲備
 中備前に能く行はれ豚は琉球以南に多く水牛は獨り臺灣
 に牧養せらるる

●水産業● 四周の海は南に南洋の黒潮あり北に北海の寒流
 ありて北海より鯨鮭鱒昆布鯨族等を捕獲すると共に南海
 より鱈鯉鮪鰯鰺烏賊章魚等を漁獵するを以て水産物は實
 に帝國の一大富源にしてその價格は凡そ三千六百五十萬
 圓に達し毎年支那へ輸出するものゝみにても凡そ四百四
 十萬圓に下らずされど漁業の規模狭小にして多くは近海



漁業の景



鹽田

の漁獵に従事し、北海に生殖する臘虎膾肭獸の如きは、空しく外國密獵船のために、その利を奪はるゝは、寔に遺憾の至りなり。

本邦の食鹽は、海水を蒸發して得るもの多きを以て、製鹽業は晴天打ち續き、空氣の乾燥せる、瀬戸内海沿岸の地方に最も盛んに、年々の製鹽は凡そ六百萬石に達し、産額の多きは、山口縣を第一とし、香川、廣島、兵庫、岡山、徳島の諸縣これに亞

ぎ、赤穂及び齋田の鹽は、殊に世上に知らる。
鑛物 鑛物は金、銀、銅、鐵、錫、鉛、石炭、硫黃、安質母、尼滿、俺石、油、水晶等各種の採掘あるが中に、最も多きを石炭、銅とす。石炭は高島炭、唐津炭、三池炭等を第一とし、北海道炭これに亞じ、全國一年の産額大凡五百萬噸以上にして、九州産はその八割

二分を占め、大概は東洋諸港に輸出す。銅は石炭に亞きて、産

額六百五十萬貫に

達し、採掘の夥しき

ことは世界中三四

位を下らず、されど、

電氣事業の發達と

共に、用途次第に増

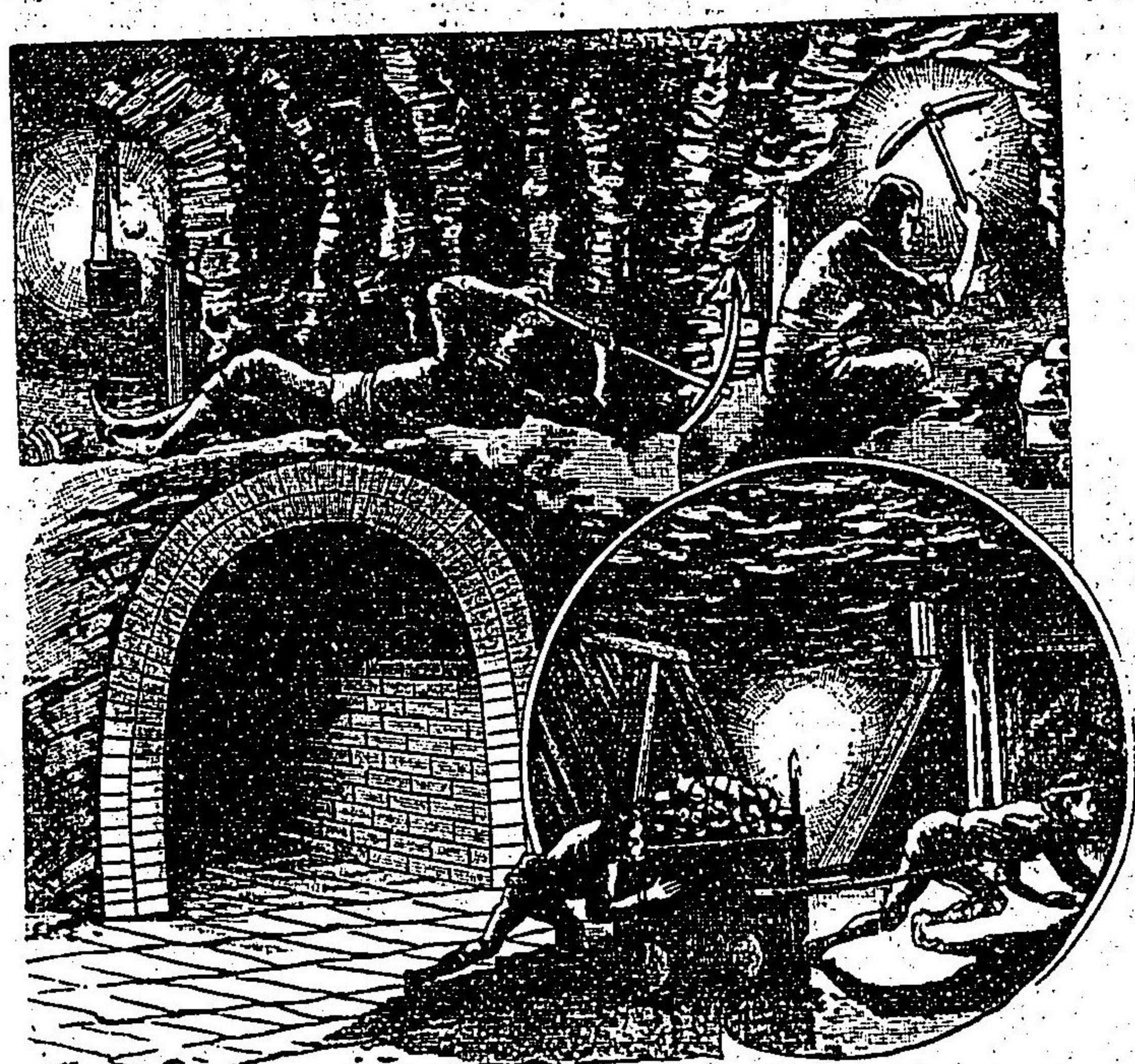
加して、今は外國の

輸入を仰ぐものも

亦少なからず、我が

國にて、足尾、別子、阿

仁、尾去澤、荒川の銅



炭 坑

鑛は産出の多量なるを以て稱せられ、飛驒備中その次ぎに位す。金は佐渡・薩摩・但馬に多く、北海道・臺灣は砂金を出だす。銀は新潟・兵庫・秋田・岐阜・福島に多く、鐵は島根・廣島の諸縣及び陸中の釜石近傍に多し。硫黃の産は世界に著名にして、商品として貿易市場に上るは、伊太利と我が國とに限る。その産額は、大抵千四百萬貫にして、七割は北米合衆國と取引す。安質母尼は産額凡そ四十萬貫なれども、世界の第一位にありて、多くは英吉利・北米合衆國に輸出す。その採掘の著名なるは、伊豫の市川鑛山・大和の十津川鑛山等とす。その他、鉛は陸前に、錫は薩摩に、滿庵は後志・伊豫・周防に出づ。石油は越後を主とすれども、遠江・信濃亦多少の産あり。石材は美濃・常陸・長門の大理石・攝津・瀬戸内海の沿岸地方及び常陸の

花崗石等を主とす。

工業 工業は從來皆手工を以て、僅かに内國の需用を充たすに止まりしが、近來、歐米の器械を使用し、大仕掛に機關を運轉するに至りしより、斯業の發達著しく進歩し、綿絲・綿布・絹帛類の輸出年々に盛んに、今は世界の工業國に列するに至れり。紡織にて、絹織物の盛んなるは、京都の西陣を第一とし、桐生・足利・福井等これに亞ぎ、木綿物は愛知・和歌山に、紡績絲は大阪に多く、染物は殆ど京都の專業にして、友仙染は殊に世上に名高し、陶磁器は京都の清水・粟田・加賀の九谷より、薩摩・燒有田・燒伊萬里・燒萬古・燒等は、今に名聲益熾んに、その三分の一は外國に出だす。その他、高知の製紙・東京・神戸の洋紙・燐寸・岡山・廣島の地蓆・麥稈・眞田等も、亦品質の住良なるを

以て聞ゆ。漆器は本邦の特産物として、その名海外に高く、黒江塗春慶塗津輕塗日光塗輪島塗山中塗等の名稱あり。又飲用品にありては、兵庫縣の清酒千葉縣岡山縣の醬油は共に醸量多く、麥酒葡萄酒も亦近時内國の需用を増し、造量漸次盛んになれり。

●商業 ●商業は運輸の利、交通の便次第に備はると共に、これが機關たる日本銀行正金銀行日本勸業銀行を始め、數多の公私立銀行を設立して、金融の圓滑を助くるを以て、内外の取引益盛大に趣き、商品の集散甚だ迅速なり。内國商業にて、取引の最も盛んなるは、清酒米穀生絲織物茶石炭材木陶器紙魚貝類にして、關東諸國に於ける東京は、關西諸國に於ける大阪と共に、東西の商業を支配して、貨物の中心市場をな

し名古屋仙臺金澤新潟函館廣島德島福岡等は、亦その間に各方面の商業を差配せり。

外國貿易は開港場と稱する、横濱神戸長崎新潟函館大阪清水武豊四日市下關門司博多唐津口津三角嚴原佐須奈鹿見那覇濱田境宮津敦賀七尾伏木小樽釧路に於ては、條約國たる以上は、禁制品を除けば、何品によらず取引をなすことを許され、室蘭は麥石炭硫黃麥粉木炭「セメント」硫酸滿俺礦晒粉木材及び板竹材に限りて、特に外國への輸出を許さる。臺灣にては、基隆淡水安平打狗を限りて、普通の開港場となし、ほかに、舊港後壠梧棲鹿港下湖口東石港東港媽宮の八港も、また開港場たり、たゞしこれ等の八港は、當分の内支那形の船に限りて出入することを得るのみ。

(一)瑞典
諸國に對し

現今帝國と通商を結べる外國は、北米合衆國、英吉利、露西亞、和蘭、佛蘭西、葡萄牙、獨逸、瑞西、白耳義、伊太利、丁抹、瑞典、挪威、西班牙、奧太利、匈牙利、秘露、朝鮮、暹羅、墨西哥、支那、ブラジル(一)の二十ヶ國にして、そのうち取引の最も盛んなるは、北米合衆國、英吉利、佛蘭西、獨逸、支那、朝鮮、濠洲、大陸、香港、浦鹽、斯德等なり。明治三十年には、輸出額一億七千七百餘萬圓、輸入額二億七千四百餘萬圓、臺灣にては、輸出額千二百七十餘萬圓、輸入額千二百六十餘萬圓ありて、その主要の商品は、本邦より生絲、絹織物、茶、米、海産物、石炭、銅、燐寸、樟腦等を輸出し、海外諸國より、鐵類、綿類、砂糖、石油、毛絲、毛織物、車輛、船舶、鐵道用具、時計等を輸入す。臺灣は多く茶、砂糖、樟腦を輸出す。

●交通 交通の機關は、猶歐米の諸國に及ばされども、維新以

來海陸共に著しく發達し、道路は國縣里の三道に分ち、東京より道廳府縣廳各開港場並びに伊勢大廟に達するもの、及び道廳府縣廳と師團司令部とを連絡するもの、或は府縣廳を連接するもの、又は師團より旅團に通ずる街道筋は、山路は開きて、平坦砥の如くし、峻坂は鑿ちて隧道を通じ、又河流には堅固の橋梁を架せるを以て、到る處概ね車輛の通行を自在にし、古への飛脚荷持等の支配せし、幼稚なる交通機關は、一轉して鐵道郵便電信電話等に代はれり。

鐵道は明治五年に、東京横濱間に官設せしを始めとし、神戸大阪京都間にこれに亞ぎ、私設は明治十四年に、日本鐵道會社の創設を始めとし、現時官私設共に既に開業せしもの、三千哩以上に延長し、唯奥羽地方、日本海沿岸の中國地方、四國及び九州の東南部、北海道の北部、臺灣の大部に未だ敷設せられざる

のみ。

郵便は明治四年に東京・京都・大阪の間に開始せしより、現時、局數凡そ三千餘ありて、到る處、信書を往復し得るのみならず、外國にあつる郵便物は、横濱・神戸・馬關・長崎に集め、これを萬國聯合郵便船に托して、各方面に發送するを以て、天涯萬里の旅客も、その通信は、本國にあると同しく、一も不便を感ぜざるに至れり。

電信は明治二年に始めて東京・横濱間に架設せしより、全國主要の都邑は、概ね電信局の設けありて、線路の延長凡そ一萬五千哩に亘り、四國・九州・北海道等へは、各本州より海底電線をしき、臺灣へは、薩隅諸島より琉球を経て基隆に通ず、外國に通ずるには、壹岐・對馬を経て朝鮮に、長崎より浦鹽斯德及び上海に、臺灣より支那に通ずる海底電信あり、電話は明治十八年に始めて架設し、現時、東京・横濱・京都・大阪・神戸等に行はる。

帝國は四方に海を繞らせるが上に、内地の河湖も亦大抵舟

航に堪ふるを以て、水運の事業は夙に發達せしが、造船航海の技術に熟し、航路標識・海上保險等交通漕運の機關の漸次備はるに従ひ、渡航の道益開け、商船會社は大阪を中心とし、内海の沿岸諸港より、北は馬關を経て、日本海沿岸の要港に寄港し、南は和歌山・徳島より、九州の南部長崎及び臺灣等の間を往復し、日本郵船會社は横濱を中心とし、西は四日市・神戸・長崎・臺灣・支那・朝鮮の諸港に航行し、東は荻濱・函館・小樽・根室・千島より、浦鹽斯德の間を往來し、又遠くは、サイゴン・ジャヴァ・孟買等に航するのみならず、近頃、更に歐米の諸國及び濠洲大陸・布哇等に航路を開始せり。

訂増 新式日本地理 終

明治三十三年三月十三日印
 明治三十三年三月十六日發
 明治三十二年七月二日再印
 明治三十二年七月五日再發
 明治三十三年二月二十日增訂三版發行
 明治三十二年十二月二十五日增訂三版發行

定價金六拾錢



著者 池田鹿之助

發行者 內田淺

印刷者 島保藏

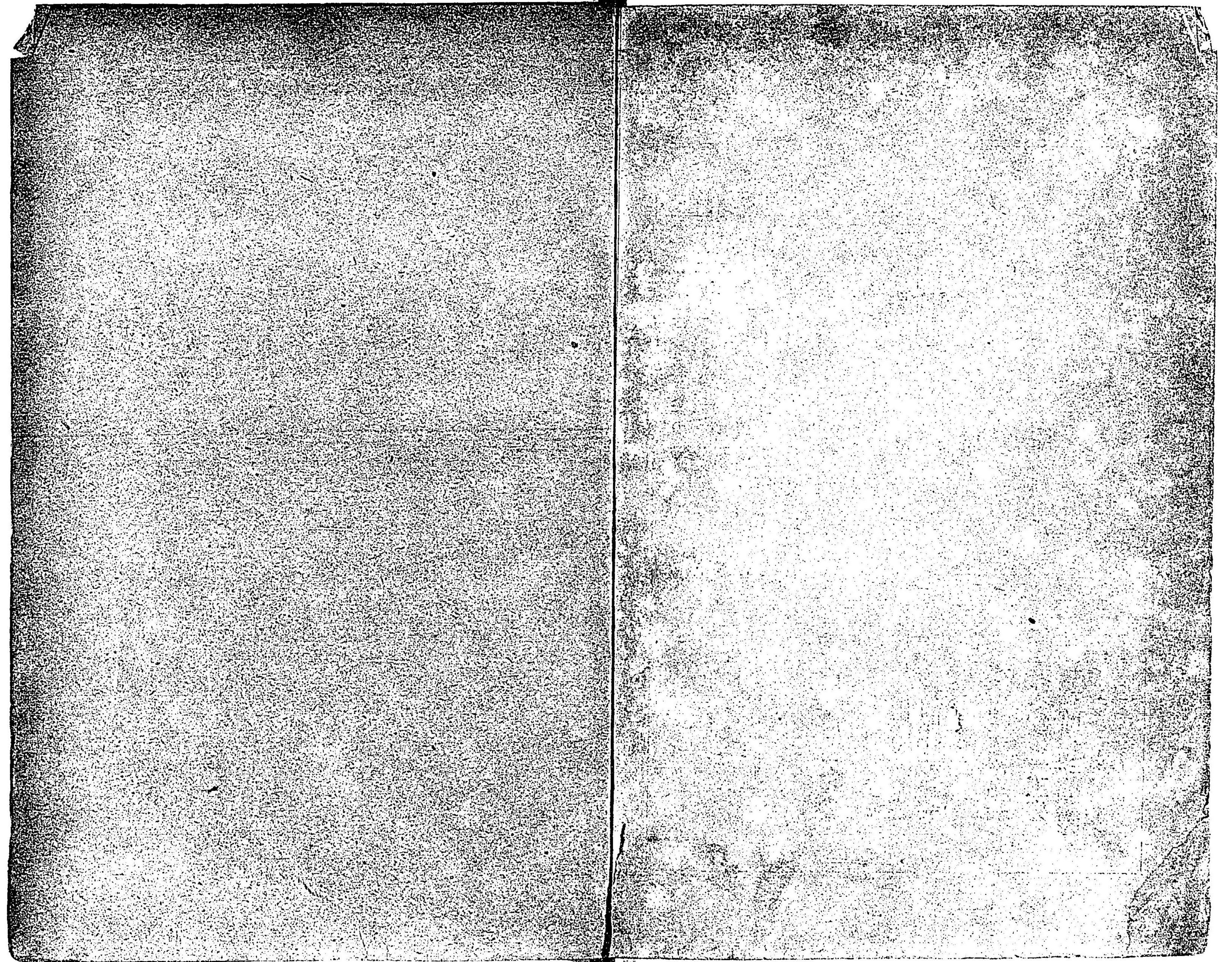
印刷所 鐵秀英舍第一工場

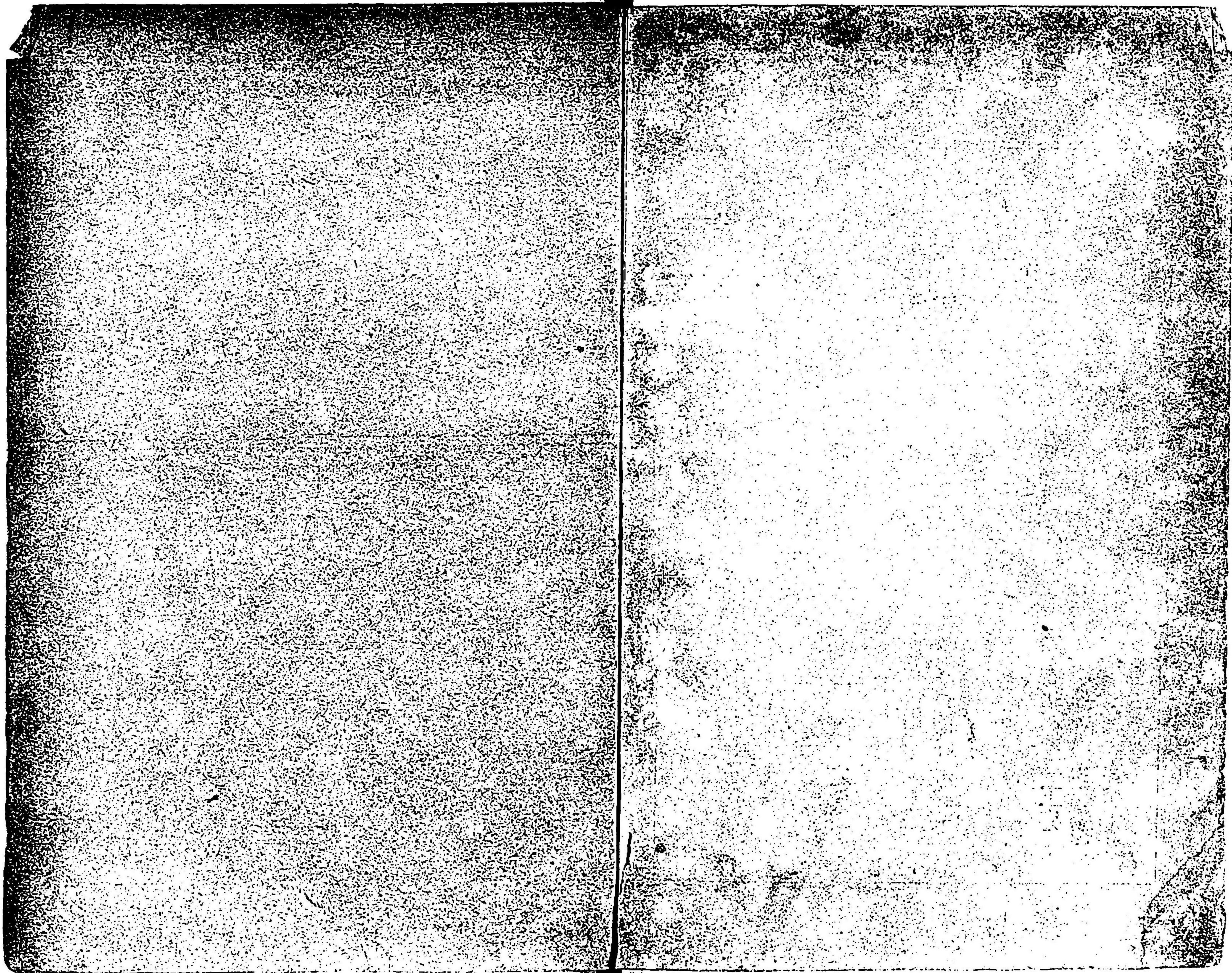
發行所 東京市日本橋區大傳馬町三丁目十六番地 內田老鶴圃

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目二十番地

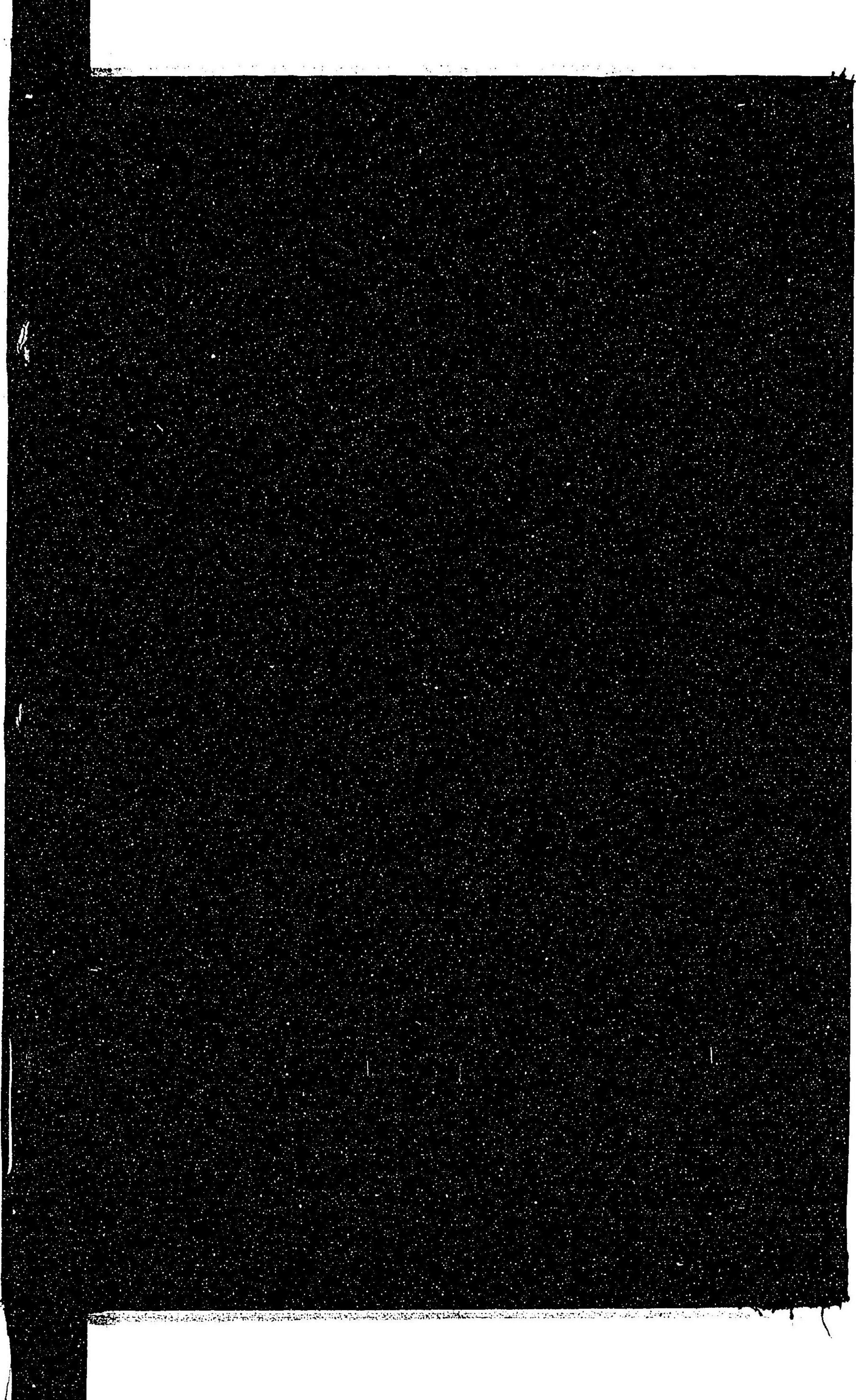
東京市日本橋區大傳馬町二丁目十六番地





84

55.





022551-000-7

84-55

新式日本地理

池田 鹿之助/著

M 3 2

ADB-0234

